

定の旧体育館の保存を求める声が高まっている。

旧体育館は日本モダニズム建築の先駆A・レーモンドの設計で一九二四年完成。鉄筋コンクリート二階建てだが専門家による調査では耐震性、安全性に大きな問題はない。

さらに旧体育館は大学校舎と寮を結ぶ中央に体育兼社交館として配置され、精神と身体が相互に養成しあう重要な場であった事が学生論文で再認識されるなど象徴的な存在でもある。この論旨に一部の教職員も共鳴、旧体育館保存を求める卒業生有志と共に大学に計画再考を要望している。学外でも杉並区住民グループや「東京女子大学旧体育館保存を要望する有識者の会」などによる賛同者が増えている。

五月二八日には学生主催で「旧体育館解体説明会」が開かれた。学長が学生の求めに応じて成立したものだ。しかし、説明会は「理事会全会一致で決定」の一点張り。解体について開発計画の観点からしか説明せず、耐震性の情報公開もなかった。

とはいえ学生側は、学長が原田明夫理事長（元法務次

官）との対話実現に向けて交渉する約束を得た。理事会がリベラルを標榜する大学に相応しく在ることを切望する。

「旧体育館には東京女子大の something を肌で感じられる空間がある。これを後輩にも味わわせてあげたい」と、ある学生は語る。

文化財としては元より、「すべて真実なこと」に照らして」という精神の継承の観点からも失ってはいけない建物なのである。

田山伊代・東京女子大卒業

東京女子大旧体育館 解体寸前で異論噴出

東京女子大学（東京都杉並区）では、キャンパス再開発計画によって今月にも解体予